

(最終回!) JICA 国際協力中・高校生エッセイコンテスト 2025 表彰のご案内

～全国 29,854 作品中、留寿都中 3 年・土屋陽愛さんが「国内機関長賞」を受賞～
2026 年 2 月 3 日(火)14:15～ 留寿都村立留寿都中学校

国際協力機構（以下、JICA）では、開発途上国の現状や日本との関係について、中学生・高校生の理解を深め、国際社会の中で日本、そして一人ひとりがどのように行動すべきかを考えることを目的に本コンテストを毎年開催しております。今回で高校生の部は 64 回目、中学生の部は 30 回、そして今年度をもって最終回となります。今年は中学生の部で 11,943 点、高校生の部で 17,911 点の応募が寄せられました。今年度のテーマは「世界の幸せのために私たちができること～未来へつなげるために～」です。身近な環境問題や世界平和に関する作品、また日本国内の課題解決を考え行動をおこし、自分ごとにつなげた作品が多くありました。

本表彰式へは、JICA 北海道所長の中川岳春が出席をいたします。

つきましては、本イベントのご取材をご検討いただきたく、ご案内申し上げます。

【受賞作品のご紹介】

「幸せを分け合うおそれわけ」 留寿都中学校 3 年 土屋 陽愛（ひな）さん
祖父母との日常の「おそれわけ」を通して、“しあわせは分け合うことで大きくなる”と感じてきた土屋さん。その体験から、思いやりの気持ちが人と人をつなぐこと、そして世界の飢餓や水不足の現実を知り、自分にできる小さな行動を大切にしたいという思いを素直に綴った作品です。

【開催概要】

開催日時: 2026 年 2 月 3 日(火)

開催方法: 留寿都村立留寿都中学校(北海道虻田郡留寿都村留寿都 179-1)

- ・14:15～ 全校集会の一部にて表彰
- ・エッセイコンテスト表彰が終わり次第、JICA 関係者退出。

※受賞生徒への取材は、表彰前 14:05～14:15 にて対応可。



(写真:他校の表彰式の様子@全校集会)

参考 URL: <https://www.jica.go.jp/cooperation/experience/essay/index.html>

別添: 受賞作品

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 北海道(札幌) 市民参加協力課 桐山

TEL : 011-866-8421 e-mail : Kiriyma.Asumi@jica.go.jp

幸せを分け合うおすそわけ

土屋 陽愛

みなさんは、「誰かから分けてもらったもの」で心が温かくなった経験はありますか。私は小さいころから、隣に住む祖父母からよく「おすそわけ」をしてもらっていました。祖母が持ってきててくれる煮物や焼き菓子の香りが家に広がると、ただお腹が満たされる以上に、心まで満たされる気がしました。「たくさん作ったから、よかつたら食べてね」。祖母の笑顔にふれるたびに、私はしあわせは分け合うことで大きくなるのだと感じました。

ある日、私はクッキーを焼いて祖父母の家に持っていました。祖母が「ありがとう。うれしいね」と笑ってくれたとき、私ははっと気づきました。おすそわけとは、食べ物を渡す行為そのものではなく、「相手に喜んでもらいたい」という気持ちのやりとりなのだと。そこにはお金も物もいらない。ただ心と心がつながる時間があるだけ。それが、私が大切にしているおすそわけの意味です。

しかし、世界に目を向けると、それが当たり前ではない現実があります。国連によると、今も世界には約8億人が十分に食べられず、飢えに苦しんでいるそうです。安全な水さえ確保できず、一日に必要な量のわずか数分の一で生活している人々もいます。特にアフリカの一部地域では、子どもたちが水を汲むために片道数時間も歩かなければならず、そのために学校へ通えない子どもも少なくありません。それでも、彼らは少ない食べ物や水を分け合いながら生きているのです。私はその事実を知ったとき、胸がぎゅっと締めつけられました。同時に、祖母との何気ないおすそわけの時間が、どれほど恵まれたものだったかに気づかされました。

SDGsの目標には「飢餓をゼロに」「すべての人に健康と福祉を」という言葉があります。私はまだ中学生で、大きな活動をすることはできないかもしれません。でも、身近なところからできることはあります。食べ残しを減らすこと。友だちが困っていたら声をかけること。家族で食べ物を大切に分け合うこと。ほんの小さな行動でも、それは誰かを支える力になるのだと思います。

私は、これからもおすそわけを大切にしていきたい。料理やお菓子だけではなく、気持ちや時間、そして思いやりも分け合える人になりたい。そして、もし世界中の人々が「誰かのためにできること」を少しずつ実行できたなら、戦争や飢餓で苦しむ人々にも必ず希望の光が届くはずです。おすそわけは、一人の力では小さいかもしれないけれど、たくさん的人がつながれば大きな力になります。

しあわせは、分け合うことで大きくなる。私は祖父母との日々からそのことを学びました。そして今度は、私自身が誰かにしあわせを分けられる人になりたい。小さなおすそわけが、世界をやさしく変える第一歩になると信じています。